

平成 29 年度 第2回 山形のみちづくり評議会 議事要旨

1. 日時

平成 30 年 3 月 7 日（水） 14 : 00～16 : 00

2. 出席委員

柴田会長、藤田委員、津藤委員、小山委員、深瀬委員、和田委員、角湯委員

3. 議事

(1) 次期道路中期計画策定に向けた作業状況及び方向性の提示について

前回（平成 29 年 12 月 1 日）のみちづくり評議会において事務局より提示した‘留意点’に対し、委員からいただいた意見をもとに、「みちづくりの方向性（たたき台）」として3つの大きな方向性（案）と9つの具体策（案）を提示した。

4. 報告

(1) 「やまがた道の駅ビジョン 2020」の取組み状況について

平成 28 年 3 月に策定した「やまがた道の駅ビジョン 2020」について、平成 29 年度の取組みの状況報告を行った。

(2) その他情報提供

高速道路の暫定 2 車線区間におけるワイヤーロープ設置などの安全対策に係る取組みについて、国土交通省（山形河川国道事務所長）より情報提供いただいた。

委員からの主な意見は以下のとおり。

山形のみちづくり評議会（第2回）における主な意見

◆次期山形県道路中期計画の方向性について

- ・通行止めや災害時などの道路交通情報について、道の駅での情報提供を含めて考えていく必要がある。
- ・「山形らしいみちづくり」は非常に良いアイデアだと思われる。路肩の人が歩く所に色を入れるなど、より良くなるような工夫していく必要がある。
- ・高齢者視点では、自転車通行帯の安全性を高めていく必要があるのではないかと。
- ・最上地域では、軽トラックや軽自動車が多く、自転車感覚で乗る住民が多いことから、歩道への誤進入や違法駐車が懸念されるので、車止め等の対策が必要である。
- ・植樹帯を撤去し歩道と車道を広げる事例が挙げられているが、場所によって植物・緑地とのバランスを考えていく必要がある。
- ・国やNEXCOが主体となる事業については、それが開通することで、地域においてどんな課題が解消され、どう利活用することで地域に還元されるのかといったストック効果を踏まえて、道路整備を求めていくことが重要である。
- ・堆雪幅の確保は国土交通省でも実施しているので、県と連携して進めていきたい。
- ・外国では自転車が長距離で旅行できるような道路ネットワークが整備されているが、日本は遅れている。例えば、内陸から庄内に自転車旅行する場合は最上川沿いを通ると思うが、安全に走れるような道路整備をすることで外国からも誘客できるのではないかと。

◆「やまがた道の駅ビジョン2020」の取組み状況について

- ・NEXCOでは、高速道路のSA・PAを防災拠点化するにあたり、例えば常磐道の守谷SAでは自家発電設備の設置や井戸の整備を行っている。道の駅でも検討してみてもどうか。
- ・新しい道の駅に様々な機能が求められるのは理解できるが、整備にお金がかかることがやはりネックである。市町村が使える補助メニューなどについて周知・指導を行ってほしい。
- ・山形県の南の玄関口を「道の駅米沢」とするならば、北の玄関口として新庄あたりにも必要なのではないかと。
- ・道の駅では、物販・生産等で高齢者を活かす取組みのほか、ユーザーの意見を取り入れて、付加価値をつけていくことが重要。
- ・トイレや観光案内所などのピクトグラムは、県独自というよりは東北地方さらには全国でも通用し理解できるもののほうが外国人などの周遊観光者には分かりやすいのではないかと。